

第2編 資 料 編

1 児童生徒の問題行動等の状況

本道公立学校の平成15年度児童生徒の問題行動等の状況は次のとおりである。

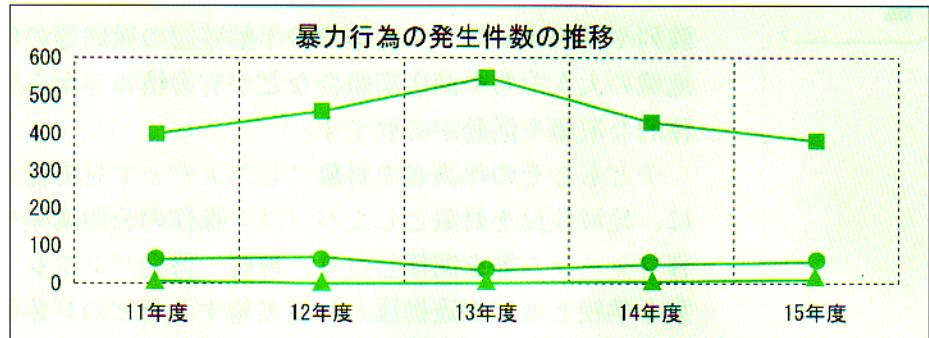
[道内調査学校数] <内訳>

2, 526校 小 学 校 1, 462校 中学校 724校
高等学校 280校 特殊教育諸学校 60校

(1) 暴力行為の状況

◇発生件数

▲ 小 学 校
■ 中 学 校
● 高等学校



	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
小学校	6件	0件	1件	5件	10件
中学校	400件	459件	548件	430件	381件
高等学校	64件	70件	34件	50件	57件

◇対教師暴力、生徒間暴力、対人暴力、器物損壊の状況

区 分	発生学校数 (前年度)	発生件数 (前年度)
対教師暴力	小学校 0校 (1校)	0件 (1件)
	中学校 16校 (25校)	42件 (49件)
	高等学校 2校 (3校)	3件 (3件)
	合 計 18校 (29校)	45件 (53件)
生徒間暴力	小学校 4校 (0校)	5件 (0件)
	中学校 76校 (72校)	144件 (149件)
	高等学校 37校 (28校)	34件 (30件)
	合 計 117校 (100校)	183件 (179件)
対人暴力	小学校 2校 (1校)	2件 (1件)
	中学校 20校 (11校)	16件 (20件)
	高等学校 15校 (19校)	16件 (16件)
	合 計 37校 (31校)	34件 (37件)
器物損壊	小学校 1校 (3校)	3件 (3件)
	中学校 42校 (35校)	179件 (212件)
	高等学校 3校 (1校)	4件 (1件)
	合 計 46校 (39校)	186件 (216件)

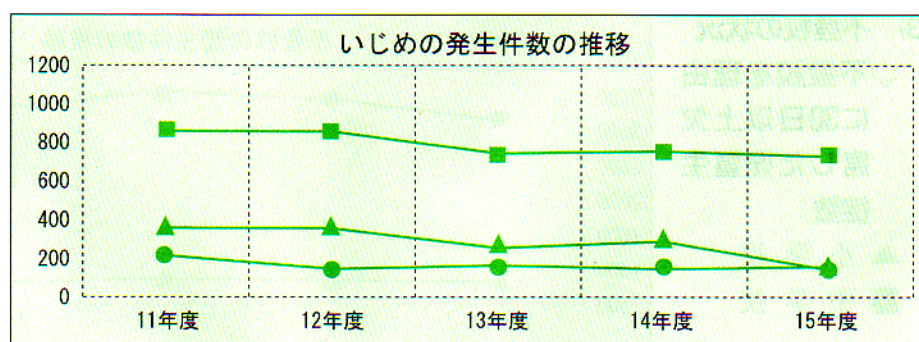
◆暴力行為への効果的な対応

- ・見過ごすことなく、毅然とした態度で対応
- ・保護者、PTA、地域社会などとの密接な連携
- ・学校だけで抱え込まず、問題の状況に応じて児童相談所や警察など、関係機関等との密接な連携を図った指導

(2) いじめの状況

◇発生件数

- ▲ 小 学 校
- 中 学 校
- 高等学校



	1 1 年度	1 2 年度	1 3 年度	1 4 年度	1 5 年度
小 学 校	3 5 9 件	3 5 8 件	2 5 6 件	2 9 0 件	1 4 1 件
中 学 校	8 5 7 件	8 5 6 件	7 4 3 件	7 5 4 件	7 2 7 件
高等学校	2 1 6 件	1 4 7 件	1 6 5 件	1 4 7 件	1 5 9 件

◇いじめの発見のきっかけ (上段が15年度、下段が14年度)

小 学 校	①保護者からの訴え 53.2%	②いじめられた児童の訴え 21.3%	③担任の教師が発見 16.3%
	④いじめられた児童の訴え 38.3%	⑤保護者からの訴え 32.4%	⑥担任の教師が発見 19.0%
中 学 校	①いじめられた児童の訴え 38.9%	②担任の教師が発見 22.3%	③保護者からの訴え 20.9%
	④いじめられた児童の訴え 31.7%	⑤保護者からの訴え 22.0%	⑥担任の教師が発見 21.5%
高等学校	①いじめられた生徒の訴え 48.4%	②保護者からの訴え 15.7%	③他の生徒からの訴え 14.5%
	④いじめられた生徒の訴え 56.5%	⑤他の生徒からの訴え 10.2%	⑥保護者からの訴え 9.5%

* 9項目から複数回答したもののうち、上位3項目

*その他の項目としては、「他の教師からの情報」「養護教諭からの情報」「スクールカウンセラー、心の教室相談員等からの情報」「教育センター等関係機関からの情報」「その他」

◇いじめの態様 (上段が15年度、下段が14年度)

小 学 校	①冷やかし・からかい 30.7%	②仲間はずれ 23.1%	③言葉での脅し 18.9%
	④冷やかし・からかい 24.9%	⑤言葉での脅し 24.9%	⑥仲間はずれ 18.4%
中 学 校	①冷やかし・からかい 34.0%	②言葉での脅し 20.0%	③仲間はずれ 14.0%
	④冷やかし・からかい 34.5%	⑤仲間はずれ 18.5%	⑥言葉での脅し 16.4%
高等学校	①冷やかし・からかい 31.3%	②暴力を振るう 23.0%	③言葉での脅し 22.2%
	④冷やかし・からかい 28.1%	⑤暴力を振るう 22.6%	⑥言葉での脅し 16.7%

* 9項目から複数回答したもののうち、上位3項目

*その他の項目としては、「持ち物隠し」「集団による無視」「たかり」「お節介親切の押しつけ」「その他」

◇いじめの解消の状況 (いじめが解消しているか、継続中で現在指導中かの二者択一)

小 学 校	8 7 . 9 % (9 1 . 7 %)
中 学 校	9 0 . 8 % (8 7 . 5 %)
高等学校	9 5 . 0 % (9 1 . 2 %)

* () は14年度の数値

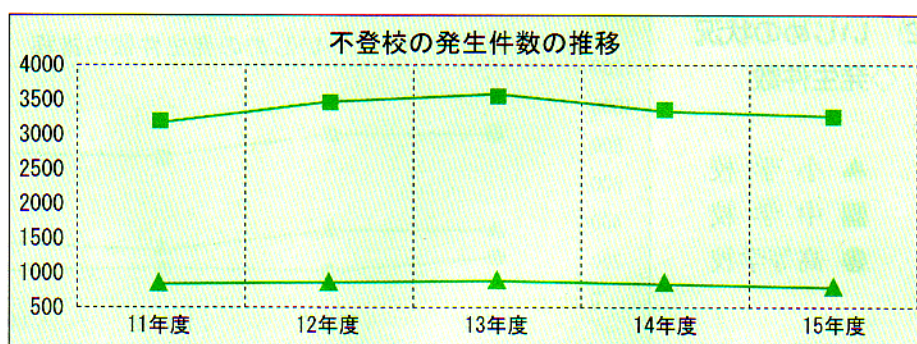
◆いじめへの効果的な対応

- ・ 早期発見・早期対応
- ・ 「いじめは絶対許されない」という毅然とした対応
- ・ 子どもの悩みやストレスを受け止める相談体制の充実
- ・ 学校、家庭、地域社会が一体となった取組

(3) 不登校の状況

◇不登校を理由
に30日以上欠
席した児童生
徒数

▲ 小 学 校
■ 中 学 校



	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
小学校	841人	864人	886人	840人	792人
中学校	3,173人	3,474人	3,588人	3,339人	3,268人

【以下平成15年度の不登校児童生徒について】

◇不登校になった直接のきっかけ * () は14年度の数値

小	①本人にかかわる問題	32.2% (28.9%)	中	①本人にかかわる問題	32.2% (31.7%)
学	②友人関係をめぐる問題	11.9% (13.2%)	学	②友人関係をめぐる問題	24.3% (22.0%)
校	③家庭の生活環境の急激な変化	10.2% (7.7%)	校	③親子関係をめぐる問題	6.9% (6.1%)

*13項目から主たるきっかけを一つ選び、上位3項目を掲載

*その他の項目としては、「教師との関係を巡る問題」「クラブ活動、部活動等への不適応」「学校のきまり等を巡る問題」「入学、転編入学、進級時の不適応」「親子関係をめぐる問題」「家庭内の不和」「病気による欠席」「その他」「不明」

*「本人にかかわる問題」は、極度の不安や緊張、無気力等で他に特に直接のきっかけとなるような事柄がみあたらないもの

◇不登校が継続している理由 * () は14年度の数値

小	①複合	32.8% (30.6%)	中	①無気力	26.0% (24.4%)
学	②不安など情緒的混乱	29.8% (28.1%)	学	②不安など情緒的混乱	25.0% (24.2%)
校	③無気力	17.4% (18.6%)	校	③複合	21.3% (23.3%)

不登校児童生徒一人につき、7項目から主たる理由を一つ選び、回答したもののうち、上位3項目を掲載

*その他の項目としては、「学校生活上の影響」「あそび・非行」「意図的な拒否」「その他」

◇不登校児童生徒への指導結果の状況 * () は14年度の数値

区 分	小 学 生	中 学 生
指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒	234人 (228人) 29.5% (27.1%)	804人 (783人) 24.6% (23.5%)
指導中の児童生徒	558人 (612人)	2,464人 (2,556人)
うち登校には至らないものの好ましい変化が見られるようになった児童生徒	145人 (154人)	671人 (631人)
計	792人 (840人)	3,268人 (3,339人)

◇指導の結果登校できるようになった児童生徒に特に効果のあった小・中学校の措置

- ①家庭訪問を行い、学業や生活面での相談に乗るなど様々な指導・援助を行った。
- ②登校を促すため、電話をかけたり迎えに行くなどした。
- ③保護者の協力を求めて家族関係や家庭生活の改善を図った。

*16項目から複数回答したもののうち、上位3項目を掲載

*その他の回答項目としては、「研修会や事例研究会を通じて全教師の共通理解を図った。」「スクールカウンセラー、心の教室相談員等が専門的に相談にあたった」「保健室等特別の場所に登校させて指導にあたった」など

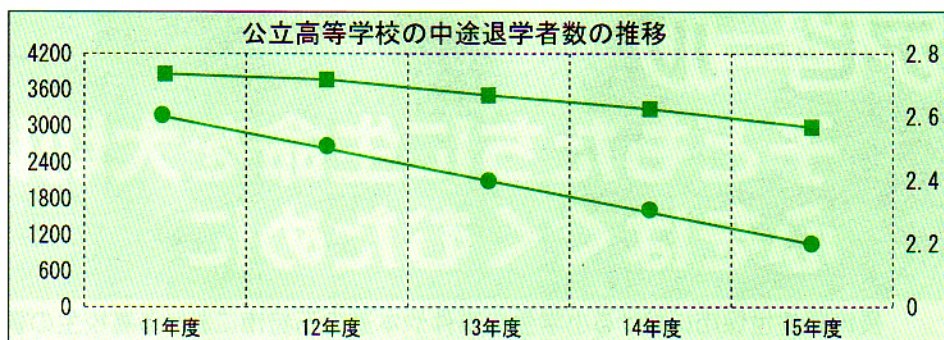
◆いじめへの効果的な対応

・不登校は、どの子どもにも起こりうるものですが、学校、家庭、関係機関、本人の努力等によって、かなりの部分を改善ないし解決することができるといわれています。一人で悩むことなく、多くの人力を借りて、不登校の解決を目指すことが、一層大切になってきています。

(4) 公立高等学校の中途退学の状況

◇中途退学者数 及び中退率

■ 中途退学者数
● 中退率

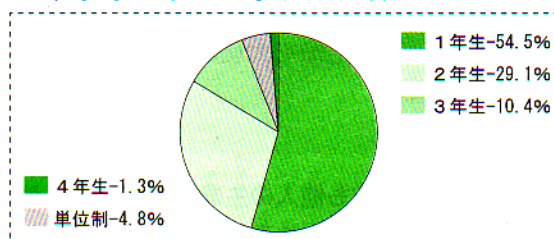


	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
中途退学者数	3,869人	3,776人	3,513人	3,287人	2,985人
中退率(中途退学者数/全生徒数×100)	2.6%	2.5%	2.4%	2.3%	2.2%

◇学年別中途退学者数

	中途退学者数	中退率
1年生	1,627人	3.8%
2年生	868人	2.0%
3年生	309人	0.7%
4年生	39人	4.2%
単位制	142人	4.0%

◇学年別中途退学者の割合



* 単位制には総合学科を含む

◇事由別中途退学者数 * () は14年度の数値

中途退学の事由	中途退学者数	構 成 比
①学校生活・学業不適応	1,098人 (1,382人)	36.8% (42.0%)
②進路変更	1,138人 (1,133人)	38.1% (34.5%)
③問題行動等	233人 (159人)	7.8% (4.8%)

* 8つの大項目から1つ選び、回答したもののうち、上位3項目を記載

* その他の項目としては、「学業不振」「病気・けが・死亡」「経済的理由」「家庭の事情」「問題行動等」「その他の理由」

* 「学校生活・学業不適応」の内訳としては、

- ①「もともと高校生活に熱意がない」 39.5%
- ②「人間関係がうまく保てない」 16.1%
- ③「授業に興味がない」 21.1%
- ④「学校の雰囲気が合わない」 11.8%
- ⑤「その他」 11.5%

* 「進路変更」の内訳としては、

- ①「就職を希望」 61.8%
- ②「別の高校への入学を希望」 20.4%
- ③「大学検定試験受検」 4.2%
- ④「専修・各種学校への入学の希望」 5.4%
- ⑤「その他」 8.2%

◆中途退学の防止に効果のあった取組

- ・ 高等学校と中学校との連携を密にして、中学生の体験入学を実施するなど、生徒の入学への目的意識や就学意欲を向上させる取組
- ・ 高等学校における教育相談やホームルームの指導体制を整備し、入学後の早い時期から個人面接を実施したり、ガイダンスの機能を生かした指導を充実させた取組
- ・ 教育課程の工夫・改善を図り、分かる授業や特別活動の充実などに努め、生徒にとって魅力ある学校づくりを推進する取組